

# 「デルタ株とは別の病気」

## 「医療従事者の欠勤増加」

### オミクロン 沖縄の専門家会議

新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の感染者が急増している沖縄県で5日、専門家会議が開かれて感染状況が詳しく報告された。琉球大病院座長の藤田次郎・琉球大教授は、症例が少なく全体像はまだわからないとした上で、琉球大病院で受け入れたオミクロン株感染者の症状について

「感覚としては（デルタ株と）別の病気。インフルエンザに近い」との見方を示した。多くの感染者が長期にわたって隔離され、医療や社会インフラに大きな影響が出ることに懸念を示した。

県の報告によると、昨年12月末の時点で県内の感染者に占めるオミクロン株の割合は9割超に達し、デルタ株からの置き換わりが急速に進んだ。1口までの1カ月間に詳しい情報が得られたオミクロン

株感染者50人のうち、症状があったのは48人。内訳は発熱が36人で最も多く、せき（29人）、全身倦怠感（25人）、咽頭痛（22人）と続き、新型コロナで自立つとされる嗅覚・味覚障害は1人にとどまった。重症例はなかった。ワクチンの2回接種を完了した人が66%を占めた。

専門家会議では、オミクロン株感染者を診た医師らから

「今日はいまのところ肺炎がない。どう考えたらいいのか」などの発言があった。

また、感染者を受け入れる重点病院で医療従事者の欠勤が増えていることも報告された。

琉球大病院で10例を超えるオミクロン株感染者を診てきた藤田座長は、「これから重

症者が出てくるかもしない」としつつ、「国は基準はない」と話す。

また、感染者を受け入れるデルタ株を前提として作られているが、臨床医の感覚では別

の病気。インフルエンザな

感染して欠勤を余儀なくさ

れるケースもあるという。医療提供や社会インフラの業務

次第、「ピーク時の職場の欠勤率は40%を想定している」と話す参加者もいた。

国が緊急事態宣言をまん延防止等重点措置の判断で重視する病床使用率などの指標が、オミクロン株の実態と合っているのではないかとの発言も目立った。医療従事者の欠勤の影響で想定していた発言も目立った。医療従事者の病床数を確保できなくなる懼れもあり、対応が後手に回る懸念する声もあった。

(安田朋起)